

審議会等の会議結果報告書

【担当課】生涯学習課図書館係

会 議 の 名 称	令和6年度第1回図書館協議会		
開 催 日 時	令和6年6月26日（水） 午後6時30分～8時30分		
開 催 場 所	茅野市図書館 閲覧室		
出 席 者	矢崎智義委員長、細川美歩子副委員長、北原東一委員、小池千恵子委員、志水琴美委員、田村満利子委員、名取真理子委員、濱喜一郎委員、山田教育長、上田生涯学習部長、矢嶋生涯学習課長、伊藤図書館長		
欠 席 者	田村満理委員、松岡隆志委員、百瀬るみ委員、両角薫委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍 聴 者 の 数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
教育長	1 開会（生涯学習課長） 2 教育長あいさつ 皆さんこんばんは。新しく委員になられた方もどうぞよろしくお願い致します。私から2つお話をしたいと思います。1つは、図書館協議会でこれまでに様々なご意見を伺ってきました。今年度は館長も変わったことですし、これまでなかなか実現できなかったことをひとつひとつ実現していきたいと思っています。具体的には、昨年度から話題になっていました他の図書館の見学をぜひ行いたいと思います。 2つ目は、令和2年の時の会議で委員長からアメリカ図書館協会の図書館の十二か条を守るという話がありました。障害のある方、生活困窮者の方、ご年配の方、子どもさん、様々な立場から公共図書館とはどうあるべきかということをもう一度原点に返って考えていく必要があると思います。ぜひどこかで時間をとって委員長からお話を伺いたいと思っておりますし、私自身も今まで出された要望をもう一度整理して、市民のための素晴らしい図書館を作って参りたいと思います。 今日は「保育協会だより」の中から、本に関係したところだけ引用したものをお配りしましたのでご紹介します。『(月刊絵本のきんのさかな マケドニアの昔話を讀んだ後で・・・)「せんせい、マケドニアってどこ?」「ちょっとまってね・・・(地球儀を持ってきて回しながら)マケドニア・・・ギリシャの近くだって書いてあるけど、どこだろう。ないなあ・・・」「せんせい、ちがうほしにあるんじゃない?』こんなふうに、子どもたちの中には本のある生活が位置づいています。保育園での読み聞かせやお父さんお母さんが本を大切にする。そんな中で、子どもたちも自然に位置づいているし、それを感じ取ってくれた保育士さんは素晴らしいと思います。 茅野市の図書館をしっかりと運営していきたいと思います。どうか智恵をお貸しください。よろしくお願いします。 3 委嘱書の交付 教育長から委嘱書が交付される。 4 自己紹介 (委員及び職員が自席で自己紹介を行う)		

生涯学習課長	5 図書館協議会の役割について (資料 1 により、図書館協議会の役割について事務局から説明) 6 図書館の見学 (茅野市図書館内の見学を行う) 7 会議事項 これより会議事項に入ります。進行は委員長をお願いします。
委員長	(1) 令和 6 年度図書館運営について まず初めに、審議会の公開について事務局から説明をお願いします。 (資料 2 により、審議会等の公開について事務局から説明) (特に異議はなく、本日の会議について公開することを決定) (資料 3、資料 4 について図書館長から説明を行う)
委員長	ありがとうございました。ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。 では、まず私から質問をします。先ほど、デジとしょ信州と学校との連携という話がありましたが、具体的にはどのようなことを考えていらっしゃるのか。
教育長	これはまだ構想段階ですが、上伊那と下伊那の一部の学校で子どもたちがデジとしょ信州を利用して本を検索することを始めました。県立図書館でもデジとしょ信州の利用率があんまり伸びないところがある中で、デジとしょを学校で使えるのではないかと思い、試しにやってみようと思っています。
委員長	著作権が切れたものが結構出てきているので、そういう意味ではいいかもしれませんね。
委員	ささいなことで 1 点気になったのですが、名簿のところに「学校図書館司書」と書かれているのですが、法制化に伴って「学校司書」が正しい表記ですので、ここの部分は図書館を抜いて学校司書としていただけたらと思います。 それから、地域の図書館も大事なのですが、一番身近な学校の図書館で図書を使って調べる体験をすることが大事だと思っています。読み物を読むことが好きな生徒はとて多くて 9 類の文学の本には興味があるし、物語になっている漫画は読むのですけれど、いざ何かテーマを与えて、それについて調べてくださいというとその方法を知らなくて、高校に来て初めて調べ物をしたという生徒さんもいます。ですので、小学校、中学校での調べる学習の中で本をどのように先生方が与えているかという部分がとても大きいと個人的には感じています。 それは私たち司書や司書教諭だけではなくて、教科を受け持つ先生方にも本に親しみを持っていただかないと 1 歩先に進めない部分で、講演会や図書館の関係で活動していらっしゃる先生方にお話をお聞きしても、私たち司書だけではできなくて、学校の教科を持っている先生が、例えば社会科の授業でこういうことを調べる学習をしましょうという時に、図書館の本も使ってみようねという指導がないと、そのまま図書館を使うという認識がないまま大きくなってしまって、図書館に足を向けるのが億劫になってしまったり、

	ネットで調べればいいやという気持ちになってしまうところがあるのではないかと思います。 その部分を教育の中で少しでも補って、子どもたちが社会に出ていくようにしていけたらと感じているのですが、司書の立場としては、教科の先生に言われて初めて本を用意するということがあって、やり方は知っているけれど、なかなかできなかったという部分です。 これは生涯学習に繋がることなので、学校の教育の中でもう少し図書館に目を向けていかれたらいいなと思っています。
委員長	ありがとうございます。そのことについて、先生いかがですか。
委員	昨年度は、本校が茅野市の読書教育の指定校ということで授業を2回公開させていただきました。塩谷京子先生が指導者としていらっしゃる2回ご指導していただいたのですが、これまで図書館利用の図書館教育と言えば読み物教材に偏ることが多かったのですが、その2回については先生方と話をして情報センターとして図書館を使いましょうということになり、2回のうちの1回の国語の授業では、調べる学習について自分の調べたいことを、どういうメディアを通して調べたら見つかるのかということをやクイズ形式で問題を出して取り組んでもらいました。これは指導者の方と私もずいぶん話をさせてもらって、あえてネット上にはない情報が書籍にはあるということを味わってもらおうよという趣旨の授業でした。 2回目の授業は、家庭科の授業を行ったのですが、野菜の切り方を調べるのに書籍とネットの両方を使いました。最初家庭科で図書館を使うと言っても誰もピンと来なかったのですが、だからこそ繋げていきたいなと思って行った授業です。 中学校でこういった取り組みをしていくことが生涯学習に繋がっていくと思いますので、中学校では9教科ありますが、9教科のうちすべてでなくても、1年間に1時間でもいいから図書館を使うことが子どもたちの本や、あるいはネット上でも調べる力を高めていくことになると思うのでご指導をいただきました。今年度もそれは継続していこうと思っています。 小学校で本に親しんできた子どもたちが、読みたい本がある図書館という発想が1つ。もう1つは調べたいことの答えがある図書館と考えるように子どもたちに経験をさせていきたいなと思っていますし、そういう意味で中学校の責任と言いますか、中学校でできることの可能性は大きいなと思っています。
委員長	ありがとうございます。それは学校で完結できるものですか。
委員	いいえ。とてもじゃないですけど学校で完結はできないものなので、学校はそのための芽を作るところかな、と思っています。
委員長	図書館の役割として、情報リテラシーの指導ということも出てくると思いますが、それは個々の学校でやるべきことなのか、それとも図書館から人を派遣してやらなければいけないような話なのか、その辺はどのようにお考えですか。
委員	先ほども言いましたように、昨年度の授業の中で図書館に行くと調べたいことの答えがある、また、ネット上でも調べ方の工夫を見つけることができる、という学習をしました。その時、大学生の指導をされているその先生がおっしゃっていたのは、何か調べたいことがあるとすぐにネットで検索をする学生について、それでは小学生の調べ方だねとお話されていて、やはり調べるのにはスキルが必要で、スキルアップをどこかで図っていく時に、中

委員長	学校では図書館に行けば司書の先生がいろんな本を紹介してくれるし、茅野市の場合は物流で必要なものがあれば取り寄せてもらえること、さらに図書館に行けば専門の司書の先生が相談に乗ってくれるということを教えて、種を撒いていくことが学校の役割なのかなと思っています。 ありがとうございます。これから先も図書館は何のためにあるのかという議論があると思います。私たちがこの図書館を作るときに、図書館とは一体何のためにあるのかという話をたくさんしてきたのですが、元々は戦後図書館法ができた時に、アメリカ軍が入ってきて図書館の基礎ができました。日本がなぜ第二次世界大戦に突入したかということ、市民が現状を知らなかったからで、市民の知る権利を確保しようということで図書館を作ったという経緯があります。 図書館は単に本を貸すだけではなくて、市民が知る権利を確保できるのか、また知ることをきちんとできる市民を創ることができるかということが大事です。民主主義を守ることも図書館の大事な役割だと言われていますが、きちんと物事を判断できる市民で在るために、資料を集めましょうということで今の図書館の基礎ができたという経緯があるのです。 ですから、図書館には行政資料や地域の資料をきちんと保管するという役割もありますので、例えば学校で資料探索の技術を指導するのが難しいということであれば、市として、図書館としてそういうチームを作成して各学校に派遣するというのも図書館の役割として大事な役割ではないかと思っています。
委員	資料に目を通していただいて、気になったところがありますのでお聞きしたいと思います。永明小中学校図書館との連携の研究という部分に興味があるのですが、もう少し詳しくお聞かせいただけますか。
生涯学習課長	永明小中学校が新しくなりまして、非常に素晴らしい図書館が出来上がっています。メディアセンターという位置付けになっているのですが、こちらを学校の生徒さんだけではなくて、一般の方々にもぜひ使っていただければと考えています。市の図書館とどのように連携して、活用を図っていくのかという研究をまずはしていきたいと思っています。
教育長	永明小学校のコミュニティスクールは学校応援団という意味合いのものではなくて、つむぎ合い講座と言うのですが、地域文化を学校で調べていこうというようなこと、例えば「茅野」と「ちの」の違いを調べたりですとか、様々なことをやっています。 地域の文化、歴史、芸術をコミュニティスクールで紹介しています。新しく立派な図書館ができたので、昼は子どもたちが使って、夜は地域に公開しても良いのではないかと考えています。ゆくゆくは今、スクールコミュニティという考え方があって、学校を中心として地域文化を作っていこうという壮大な話もありますので、こちらの図書館と永明小中学校図書館でどのような連携ができるかという議論をしてみたいです。 7月20日に永明小中学校の校舎の公開がありますが、その時に図書館を市民の方に開放することになっています。その時に郷土誌の展示をして、借りたい人はこちらへどうぞというご案内をすることを考えていますし、ゆくゆくは大人向けの本を永明小学校の図書館で借りられるシステムができればいいな、とか色々なことを考えています。
生涯学習課長	永明小中学校の校舎が7月20日に一般公開されます。非常に素晴らしい設備になっておりますし、今教育長さんがおっしゃったような企画等ありま

委員	すので、ぜひみなさん足を運んでいただければと思います。よろしくお願いします。 自分の子どもが小さい時に、この図書館に来て絵本を借りたことや、おはなし会に参加したこと、絵本作家さんが来て絵本を読んでくれて最後にサインをもらったこと、子どもを連れてここに来た思い出がたくさんあるのですが、子どもが大きくなってからはなかなか図書館に来ることが少なかったもので、今日は久しぶりに来て図書館がこんな風が変わって、素敵になっているのを見てとても嬉しい気持ちになりました。 資料の6ページにも書いてあるのですが、おはなし会を中心に0歳から楽しめる様々な講座やイベントを企画しています、というところを見た時に自分の昔の記憶が蘇ってきて、子どもたちが楽しみに図書館へ行ってみたいなと思うような企画だとか、子どもさんだけでなく大人も図書館に行きたいな、と思えるようなおはなし会などの企画があるといいなと思いました。 それから、保育園では9時になるとオルゴールが鳴って、絵本を先生たちが読み聞かせをするのですが、子どもたちは本当に絵本が大好きで、朝だけでなくお昼寝の前の時間だとか、帰る前の時間にも何回も読んでと言ってきます。先生たちに読み聞かせをしてもらう時間も、自分で読む時間もすごく好きです。 ですが、子どもたちは図書館まで足を運んでいるのだろうかということを考えますし、私の保育園から分室まで歩いて行くのが難しいので、バスに乗るということが必要になってくるのかもしれませんが、保育園として図書館や分室に行く機会を作っていきたいなと思っています。 あとは図書館の方から出張おはなし会ということで来ていただいて、おはなし会をしてくださることが、園と図書館を繋ぐ機会になっていて、図書館のお兄さんやお姉さんが来てくれて絵本を読んでもくれた、パネルシアターをしてくれたという経験が、図書館に行ってみようという気持ちにも繋がると感じているので、保育園と図書館で連携を取りながらまた進めていければいいなと思います。
委員	今、小学校1年生の担任をさせていただいているのですが、1年生も本当に絵本が大好きです。毎朝の読み聞かせをとても楽しみにしてくれていて、読み聞かせの時間になる前からおはなしコーナーを自分たちで作ってくれて、今日は何の本を読むの？と聞いてくるくらい楽しみにしてくれているので、私も毎日2冊の本を読み聞かせしています。私が読み聞かせをした本は子どもたちがその後図書館で借りてくれるので、たくさん本を紹介していけたらいいなと思っています。 保育園の頃から本に親しんでいる子どもたちなので、茅野市の子どもたちはおはなしを聞くことや、自分で本を読むということが本当によく身に付いているなと思っています。 調べる学習にも力を入れているのですが、自分で調べたいことを見つけるのが得意な子と、そうでない子とに分かれるように思います。小学校ではスキルノートというものがありまして、それを全ページやって、中学に持っていくという学習が図書館の時間で行われているのですが、担任の先生によっては図書館の時間が本の貸し借りだけで終わってしまうこともあって、スキルノートの活用を司書の先生と一緒に進めてはいるのですが、なかなか手が回らないという現状があります。 自分で調べたいことを調べて、必要なことをまとめるという力は本当に必要だと思うので、これから夏休みに調べる学習に取り組む子どもたちがたくさんいて学校図書館だけでは資料が足りないと思いますので、こちらの図書館を子どもたちに紹介していきたいなと思っています。

委員長	そのスキルノートというのは、教科の中であるようになっていてるのですか？
委員	そうです。国語の教科の中で行われています。
委員長	そのスキルノートをやり終えると、調べる力が付くのですか？
委員	そうです。それをやり終えて中学に持っていくことになっています。
委員長	そういうシステムがあるわけですね？
教育長	調べる学習コンクールで良い成績をとっているの、数年前に図書館協会からお金をいただいてスキルノートを作りました。スキルノートを各学校に配って授業で使っています。
副委員長	実際にスキルノートの作成に携わっているのですが、いわゆるレファレンス資料の使い方を学習するためのワークシートになっています。レファレンス資料というのは、図鑑、百科事典、小学校でいうとポプラディア等がありまして、奥付から出典を書きましょうという一連の学習ができるようになっています。 ですから、調べる学習に必要な資料をどうやって使っていくかということ学ぶためのワークシートがスキルノートです。
教育長	1冊あれば全てが網羅されていますか？
副委員長	そうですね。学年に応じて、1年生は図書館の本の並べ方やラベルの意味はこうだよというところから始まりますし、2、3年生になると図鑑の使い方を学び、4年生で百科事典、5、6年生で年鑑の利用ができるようになっています。特に年鑑はなかなか使用する機会がないので、使い方を教えています。 今の小学校の教科書は必ず学年に応じて図鑑や年鑑を使う場面が単元の中に含まれています。さらに言えば引用の仕方が2年生の単元であります。そういうところまでしっかり確認して、学べるための手立てとしてスキルノートを作りました。 特に「引用」はとても大事なものの、教科書にも必ず載っています。茅野市は調べる学習に力を入れていて、引用は中学、高校、大学、社会人になっても使いますし、それから著作権にも関わってくるものなので、それをきちんと学ぶようにするためのサブテキストのようなものになっています。
教育長	この間ありました著作権についての研修会について少し教えてください。
副委員長	先日、著作権についての研修会がありまして、大学の先生がいらして私たちも学ばせていただきました。引用についての基本を教えていただいたのですが、かなり難しかったです。ですからそれをそのまま小学校に当てはめるのは少し難しいのですが、小学校だったら奥付を見て出典を書くことが大事ですよということをしっかり学びました。
委員長	ありがとうございました。まとめますと、スキルノートというものがあって、学年に応じたワークをするようになっていて、それを各自1人1冊持っているということですね。

委員	図書館の運営ということでお話していると思いますけれど、今日の信濃毎日新聞に岡谷図書館の記事が載っています。「魅力アップで文化のまちの拠点目指し」という記事ですが、図書館に対する市民のニーズがものすごく多様化しています。それから、AI の時代なので卒業論文も AI が書くような時代になっています。ですから、図書館も市民の知る権利だとか、様々なニーズに応えるためには、幅広い範囲で、やり方を考えていかななくてはならないと思います。 残念なことに、茅野市は大変財政が苦しいということなので、削る所もあると思いますけれど、ぜひとも図書館の予算の獲得と本の充実を図っていただきたいと思います。 また、前回の会議で話題になったと思いますけれども、他の図書館へ行っ て見学に行こうという話があったと思いますので、検討していただきたいです。 少し遠いのですが、宮崎県の都城市というまちでは倒産した駅前のショッピングモールの建物をリノベーションして図書館に作り変えました。人口が約 15 万人の市の図書館に、1 年間で 27 万人来てくれたらいいなと思っていたら、6 年間で 555 万人が来館し、画期的な図書館作りをしたら、その周辺に今度は店舗ができ始めたというような事例もあります。都城市といえば、ふるさと納税の受入額が日本一という市ですから、財政に余裕があるということもあるとは思いますが、図書館が 1 つのきっかけとなって、市民の意識が向上するという例もあるので、茅野市でも調べる学習を始めとした教育の充実に力を入れていただきたいと思います。
委員長	ありがとうございました。他に何かご意見やご質問はありますか？ (2)意見交換
生涯学習課長	昨年の会議録を配布させていただいております。様々なご意見にお応えできないこと心苦しいですが、いただいた意見についてできるだけ取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。これまでのところでだいぶ意見交換が進みましたので、皆さんから何もなければ委員長からお話があるということですので、お願いします。
委員長	図書館の事業を見ていただいてもおわかりになるかと思いますが、おはなし会ですとか、比較的子どもさん関連の事業が多いです。この会議の顔ぶれも学校関係、教育関係が非常に多くて一般の企業からの方が少ない状況です。それが悪いという訳ではないのですが、65 歳以上の人口が 3 分の 1 を占めていて、これからどんどん高齢者が増えていくでしょうし、あとは大変忙しい世の中になっていて、働いている人たちも様々な悩みを抱えていらっしゃる、という中で 18 歳以下の方たちをターゲットに事業をするのがいいことなのか？もっと広い範囲で事業を展開していったほうがいいのではないかという話が昨年ありました。 何人かの委員さんからそのような意見がありまして、私もずっとそのことが気になっていたのですが、それがなかなか図書館として実現できていません。もちろん図書館側の事情もあるかと思いますが、その辺をもう少し館長さんまたは課長さんからお聞きできればと思います。
生涯学習課長	おっしゃるように、委員さんの方から、高齢者に差し掛かってきているけれども、その年齢を対象とした講座がないというようなご意見をいただいたので、子どもたちに対する読書推進ということでは本当に充実していて、最先端をいっているのではないかと考えているのですが、おっしゃるよう

	れから高齢者の方が増えていきますので、高齢者の方々の生きがいに繋がるような図書館を皆さんと考えていけたらと思っています。
図書館長	私も図書館に来て色々な方のご意見をお聞きし、そういった考え方もあるのだなと思ったところです。今までは、やってきたことをそのまま引き継いでやっていかななくては、というような図書館だったと思います。何をどう変えていけるのかはまだわかりませんが、職員も日頃の業務が忙しい中で、工夫して新しい発想が持てないかということを話しながら考えているところです。委員の皆さんから助言をいただきながら、少しでもできることがないか考えていきたいなと思っていますので、ぜひともご協力をお願いします。
生涯学習課長	より良い図書館を目指して我々も努力をしていきたいと思っているのですが、現状をご説明しますと、ネットによる図書の予約がかなり増えていきます。ネットでの予約が増えると、職員が予約の本を取りに行き準備するという手間がかかることになり、現場の職員がかなり手一杯で余裕がないという現状があります。そうした中で新しいことをしたり、講座を充実させていくには、やることを精査して重点的にやることを見定めていくことが必要になってくると思っています。その点も踏まえて、また皆さんと議論をさせていただければと思います。
委員長	ありがとうございます。私はそういう議論をしたかったんです。皆さんから意見を出していただいても、これまでの会議では、今日は結構な意見がありました、で終わってしまっていたと思います。図書館の方々も苦労していらっしゃるって、その実情をフィードバックしていただくことができれば、こちらから何かアイデアを出すこともできると思います。 私も、いろんな図書館を見てきて、チップを入れて自動貸出しているところもありました。それもお金がかかるのですよね。ただ、最近百円ショップに行った時に、セルフレジになっているのを見ました。 図書館で実現可能かわからないですが、もしそういうことができればそこは1人減らすことができるのではないかと思いますし、どんな悩みがあるか言っていただいて、いろんな面で検討していくべきなのかなと思います。
生涯学習課長	今のお話ですけれども、図書館のデータを集計しているのですが、年間でたくさんの行方不明の本が出てきます。何冊くらいというのはすぐに数字が出てこないのですが、ただ実際に黙って持っていかれてしまうという現状があるので、無人にするともっと増えるのではないかと、必ずしもそうではないのかもしれないと委員長のお話を聞いていて思いました。セルフ貸出というのもひとつ良い案だなと思います。実際行方不明の本というのはどのくらい出ますか？
図書館職員	すぐ手元に正確な数字を持ち合わせていないので、申し訳ありません。 (後日確認：年間およそ100冊～150冊程度)
委員長	行方不明の本や、汚されたり、破かれたりする本も結構あるということです。ありがとうございます。他にご意見等ありますか。
委員長	他の図書館を見学に行きたいというご意見がありまして、皆さんからの希望を募っています。何を見に行くのかということもあります。分室に行ったことがない方もいらっしゃると思いますが、茅野市では分室に5,000冊～6,000冊の本があります。それもこの先どうしていくかという問題がありますし、図書館本館との役割分担をどうするのか、市民館図書室をどうするの

	かという問題も出てくると思いますので、委員さんには身近な分室や市民館図書室を見てもらって現状を見ていただいてからまたご意見をいただければと思います。 前回もお話をしたのですが、原村、富士見の図書館は貸出冊数で日本一になってきた図書館です。今までは、漫画を貸し出しているから、それが原因なのだろうと私は思っていたのですが、本当にそれだけで日本一になれるのかなと疑問に思います。貸出冊数が伸びる秘密があるとすれば、それを身近にいて知らないというのはもったいない気がします。 あとは貸出状況を見るときに、冊数ではなくて、どんな人が借りているのか、どんな分野、どんな分類の本が出ているかという統計をお聞きできればまた議論ができると思います。 それと、AV 関係の設備があまり充実していないので、それが原因で差が出ることもあると思うので、その辺りの利用状況をまた教えていただければと思います。
生涯学習課長	他の図書館の見学のことで、富士見町さん、原村さんというお話をいただいている、近場の 6 市町村を見て回ってお話をお聞きしたりするだけでも勉強になると思いますし、昨年中にありました図書館の職員同士の交流がまったくないというのは非常にもったいない話だなと思ひ、見学会の時には職員もぜひ参加させたいなと思っております。そこから継続して何か情報交換の仕組みができればいいなと考えています。
委員長	今がどうかはわかりませんが以前、会計年度の職員さんを雇える期間が決まっていた辞めてもらうということがあったようですが、それだったら 6 市町村内で雇い直しするという手もあるのかなと思うのです。せっかく慣れてレファレンスもできるようになってきたのに、期間が来て辞めなければいけないという例があったようですので、それは図書館同士で連携を取ることで解消できるのではないかと思います。
図書館長	そのご意見は職員からも出ていて、館長会というものがありまして、6 市町の館長が集まる会で会議も開かれますので、その会議の中でそういったことも議題に上げていこうと思ひています。
委員長	他にご意見はございますか。なければ会議事項はこれで終了としたいと思ひます。
生涯学習課長	8 今後について 皆さんありがとうございました。今後の話もさせていただきましたけれども、今年は他の図書館の見学会ということで、視察の計画をさせていただきたいと思ひます。毎年図書館協議会は 2 回～3 回という回数でしたが、今年は例年以上にお集まりいただく機会が増えてしまうこととなりますけれども、皆さまのご都合をお聞きしながら近いうちに実施したいなと考えております。 その見学会に合わせて、委員長が図書館のことを本当によく研究されていますので、合わせて委員長の講演会、お話を聞く機会を設けさせていただければと思ひます。よろしくお願ひ致します。 もうひとつ確認させていただきたいのですが、図書館協議会の開催時間ですが、現在は 6 時半から開催させていただいていますが、夜にご都合をつけていただくのが難しい方もいらっしゃるということで、例えば夕方 4 時からに変更していただくことは可能でしょうか？
委員	私は早い時間の方がありがたいです。

生涯学習課長	いかがですか？皆さん
委員	私も夕方からの方がありがたいです。
生涯学習課長	わかりました。それでは、夕方4時くらいからということで、時間については調整させていただきます。
生涯学習課長	9 閉会（生涯学習課長） それでは、本日の次第はすべて終了しましたので、これを持ちまして、令和6年度第1回茅野市図書館協議会を閉会させていただきます。長時間ありがとうございました。 ～午後8時30分 会議終了～